

平成26年度決算

平成26年度の収支の状況、市債や基金の現在高などの決算状況について、Q&A（問答）形式でお知らせします。

財政課 ☎ 65・1220 FAX 65・1216

決算

Q 決算って何ですか？

A 決算とは4月1日から翌年3月31日まで（会計年度）の1年間に、どのような収入（歳入）があり、どのようなことに使った（歳出）かをお知らせする結果報告です。

Q 決算の結果はどうなりましたか？

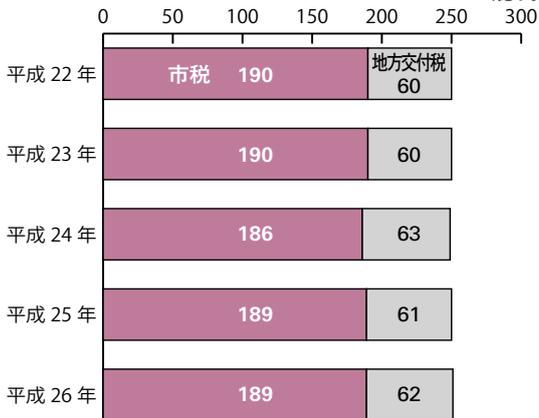
A 一般会計決算額は、歳入が502億3204万円、歳出が485億8832万円で差引は16億4372万円となり、さらにこの額から27年度への繰越事業の財源5億4340万円を差し引いた実質収支額は、11億32万円となり、46年連続して黒字決算となりました。

歳入

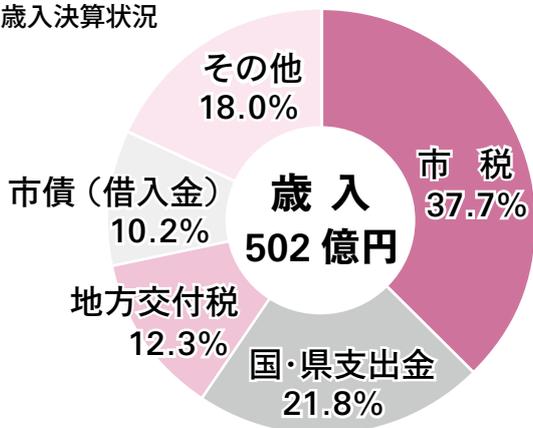
Q 歳入にはどのようなものがあるのですか？

A 一般会計の歳入には、市民の皆さんが納める市税のほか、地方交付

市税・地方交付税収入の推移 (億円)



歳入決算状況



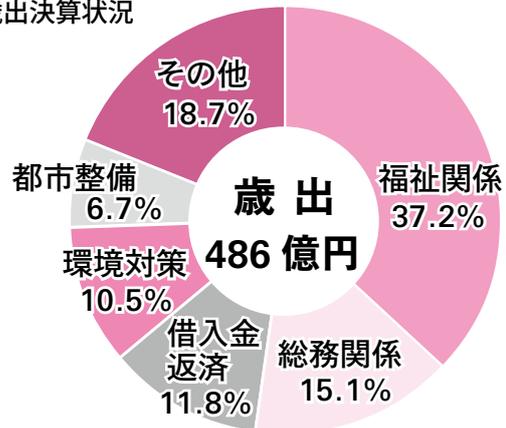
Q 歳入は昨年と比べてどうなりましたか？

A 昨年と比較し、市税収入は固定資産税の増収などにより1795万円の増加、地方消費税交付金は2億2659万円増加しました。また、諸収入は1億3528万円の減少、自動車取得税交付金も2960万円の減少となりました。これらの結果、歳入総額は前年度より32億8541万円増加しました。

税、国や県からの収入（補助金）、市債（借入金）などがあります。

歳出

歳出決算状況



Q 歳入を、どのように使いましたか？

A 一般会計歳出の第1位は福祉関係（民生費）です。臨時福祉給付金事業費の増加などにより、前年度より11億7307万円増加し、180億7695万円、支出全体の37.2%を占めました。

次に多いのが、総務関係（総務費）で73億3348万円、以下、借入金返済（公債費）57億2736万円、環境対策（衛生費）51億1515万円、都市整備（土木費）32億7382万円となっています。

一般会計の主な使い道

特別会計の決算状況

(単位：万円)

事業	歳入(収入)	歳出(支出)
貯木場事業	1億 573	5,693
渡海船事業	1億 9,332	1億 9,332
住宅新築資金等貸付事業	3,526	703
平尾墓園事業	2,527	2,527
公共下水道事業	56億 8,015	56億 5,347
工業用地造成事業	2億 5,945	2億 9,811
国民健康保険事業	137億 6,232	137億 6,232
介護保険事業	132億 6,021	130億 1,071
後期高齢者医療事業	16億 5,388	15億 6,601
合計	349億 7,559	345億 7,317

■新居浜駅前南駐車場の建設



■塩の学習館の建設

企業会計の決算状況

(単位：万円)

事業	収益(収入)	費用(支出)	当期純利益	企業債の残高
水道事業	19億 2,278	16億 5,666	2億 6,612	51億 4,566
工業用水道事業	2億 3,702	2億 993	2,709	8,185

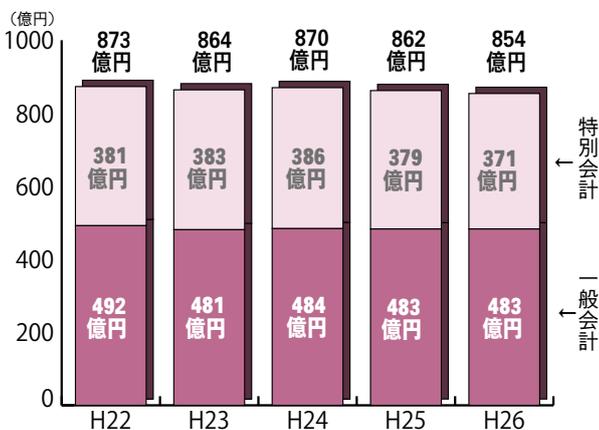


企業会計には、水道事業会計と工業用水道事業会計があり、経営に必要な費用は水道料金収入などによって賄う独立採算制の会計です。

Q 一般会計のほかに、どのような会計がありますか？
A 特定の目的のために設置し、一般会計とは区別して経理している特別会計と、企業会計があります。

特別会計・企業会計

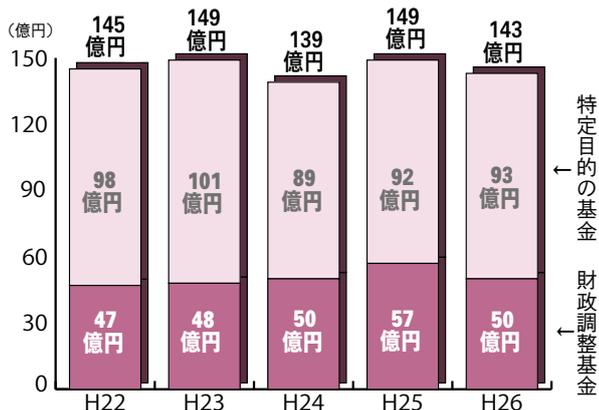
借入金(市債)残高の推移



Q 市債の残高の状況は？
A 市が国や金融機関などから借り入れる資金のことを市債と言います。将来にわたって使われる学校や道路、公園などの公共施設を整備する場合には、資金の一部を借り入れます。一時的に多額の費用が必要となることも理由の一つですが、将来、その施設を利用する人々にも借入金を返済してもらおうことで、世代間の負担の公平を図っています。昨年度と比較すると、一般会計では2832万円、特別会計では8億159万円減少しました。

借入金(市債)

積立金(基金)残高の推移



Q 基金の残高の状況は？
A 基金は皆さんの家計で言うところ「貯金」に当たります。基金には、特定の目的のために積み立てている基金と、災害などの緊急の出費や道路や学校の建設など一度に多額の出費が必要ときに備えるための財政調整基金があります。昨年度と比較すると、特定の目的のために積み立てている基金が5008万円増加し、財政調整基金は6億7400万円減少、残高は142億5363万円となっています。

積立金(基金)